

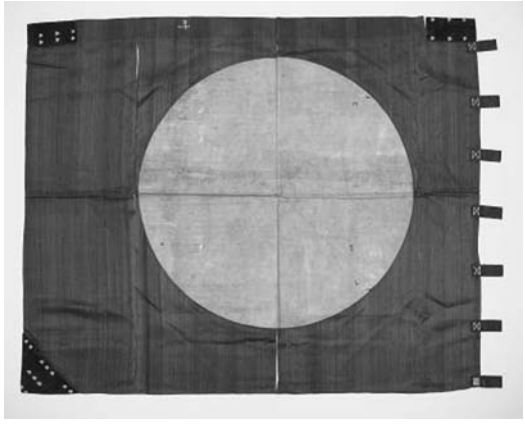


那須与一伝承館通信〈第8回〉

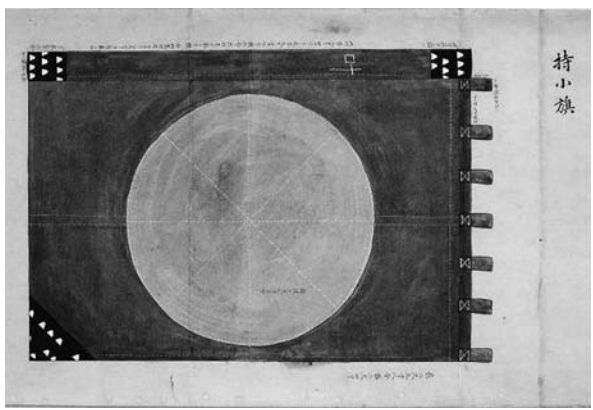
◎目ノ丸持小旗

今回は那須与一伝承館が収蔵する資料の中から、目ノ丸持小旗を紹介いたします。

持小旗は、武士が戦場での目印として用いた手に持つ小さな旗のことです。本品は、戦国時代のものとみられ、旗は群青（鮮やかな藍がかつた青色）の絹地でできており、日輪の部分は厚手の和紙を縫い込んであります。旗の大きさは縦88センチメートル、横72センチメートルで、旗の端には、旗竿を通すための袋と乳が付いています。袋の部分を見ると、「叶」という字



目ノ丸持小旗(那須家所蔵)



「軍器図鑑」所収、持小旗図(那須家所蔵)

が縫われ、戦勝の願いが「叶」のように作られたものだとわかります。また、この旗は「軍器図巻」にも描かれていることから、那須家において什宝（秘蔵されてきた家宝）として大切に扱われてきたことがみてとれます。

現在、この旗は那須与一伝承館において展示されています。ぜひ、戦国武将が用いた本物の旗をご覧ください。

■問い合わせ

那須与一伝承館
TEL (20) 0220

彫刻

市内で作られた作品とその作者

周遊 17

このコーナーは、「那須野が原国際彫刻シンポジウム」で公開制作、設置された作品とその作者を連載で紹介いたします。

この作品は、ふれあいの丘の芝生広場の南東隅にある彫刻です。

一見すると愛らしいイルカにも見えますが、よく見ると背中に丸太のような重そうなものを背負い、飛行機のような格好になっています。その顔は微笑んでいるようにも、憂いのある悲しい表情にも見えたりします。



イルカひこうき

ふくだ ゆたか
福田 豊 1998年

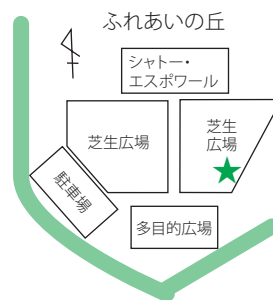
「朝目覚めてもまだうとうとしていたのに、大人になればなるほどそういったことは許されなくなる。現実には立ち向かわなくてはならない。でもそこから逃げ出したいという気持ちもある。」誰もが抱えているような心の葛藤。作者はそんな切ない思いを抱えながら、「甘ったれたひ弱な夢」も必要だとして創り出した作品だといいます。



福田 豊氏

作者は1972年埼玉県生まれの福田豊氏。東京藝術大学彫刻科、同大学大学院修了。現在は高校で美術の教員をしながら、一陽会で彫刻家として活動しています。1997年の第5回東京藝術大学卒業・修了制作展における取手市長賞のほか、2007年の第53回一陽展彫刻の部における齋藤賞などを受賞されています。

設置場所案内図(★印)



■問い合わせ

文化振興課文化振興係 TEL (23) 8718